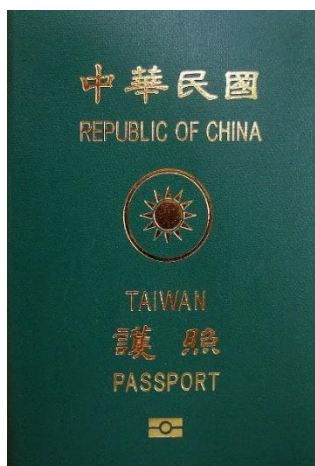


「くに」・アイデンティティを考える

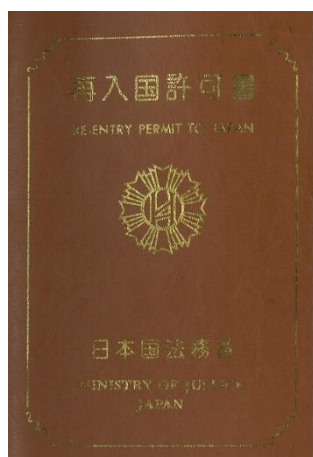
研究推進部長 丹生 憲一

6月30日(火)の2学年「丹BAL台湾」では、後藤みなみ(王 淑麗)さんをお迎えして、講演会「台湾 日本 人生」を開催しました。後藤さんには5年前からずっと本校の台湾学習に関わっていただいています。前回まで、2年生の皆さんが自分たちの視点で考えた「台湾とは国か」という問いに応えるように、当事者の立場から想いを語っていただきました。1・3年生の皆さんのために、後藤さんからいただいた資料をもとにかいつまんで紹介しておきます。

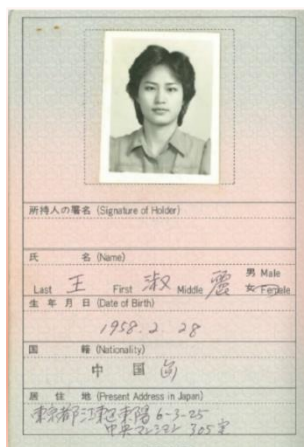
後藤さんの故郷は、台湾の台南で1984年に来日されました。最初に来たところは東京で「外人」扱いです。山一証券にお勤めになり、バリバリ働こうと考えていましたが、ちょうど「男女雇用機会均等法」が施行された年で、まだまだ男女格差が大きいことを痛感されたと言います。当時は、バブルの絶頂期です。日本人と国際結婚され、自給自足農業にあこがれていた旦那さんについて宮古島に渡り、子育てされました。のちに、神戸に越されて人権教育の講師として働かれるようになりますが、いつも「私はなにじん?」という疑問に苛まれてきたそうです。下にパスポートや身分証明書を紹介しておきます。



中華民國旅券



再入国許可書



国籍：中国（台）？



日本国旅券

後藤さんは1950～80年代を台湾で過ごされました。台湾は当時、蒋介石の国民党一党支配下であり、台湾文化・日本文化排除が進められていました。本省人・外省人・原住民(山地人)の別があり、戒厳令(1949～1987)の下、「白色テロ」とよばれる政治犯の弾圧の日々…。高校には軍官が常駐し、軍事射撃訓練も行われていたそうです。日本にきて初めて、それまでは知らされていなかった台湾のことを知ったとおっしゃっていました。日本統治時代のこと、二二八事件など…。

現在の台湾は様変わりし、台湾初女性総統 蔡 英文が2016年5月就任し、2020年現在2期目を務めています。このコロナ禍にあって、「TAIWAN CAN HELP」のキャッチフレーズの下、国交のある国々に積極的にマスクやサーモグラフィーを寄贈しました。…しかし、その国交ある国は、世界にわずか15か国だということです。新型コロナ・ウイルスの封じこめに成功したと言われてはいますが、世界保健機関(WHO)には加入が認められていません。蔡英文総統は、若者重視の政策を進め、IT政務大臣に39歳の唐鳳(オードリー・タン)氏を抜擢し、開かれた政府、地域創生、多文化共生に努め、アジアで初めて同性婚を合法化したことでも知られています。そんなお話の最後には、次のような課題をいただきました。1・3年生の皆さんも考えてみてください。

1. あなたは国に守られていると思いますか
2. もし自分の国が「国」と認められなくなれば、どう思いますか
3. 国歌、国旗をどう思いますか
4. 10年後・20年後・30年後の自分へ



6月30日(火) 特別講義 高畑由起夫先生

研究推進部副部長 土元 優一

関西学院大学の高畑先生を招き、特別講義を行っていただきました。5限には、1年1組を対象に、「課題研究とは何か。リサーチをどのように進めたらよいか?」というテーマのもと、

- I. 皆さんに知ってもらいたいこと
- II. リサーチ等の構成・手順
- III. テーマの掘り下げ方・深め方
- IV. 多様な現象を整理、異なる意見をまとめる
- V. レポートのまとめかた
- VI. 資料や文献をどこで探すか?



という内容で話をされる予定でしたが、講義後に「予定していた内容の3分の1しか話せなかった」と言われたように、(こちらの機械接続不良もあり)すべての内容を聞くことはできませんでした。(残りの3分の2を聞く機会は今後設定していく予定です。)しかし、短い時間の中でしたが、講義内容はとても濃いものでした。

課題研究(リサーチ)の手法は、グローバル・スタンダードであり、一連の活動を通して、“学ぶこと”を“学ぶ”のであるという話の後、特に、テーマ設定が最重要であると話されました。さらには、テーマが“オリジナリティ”と“リアリティ”、そしてそれらを結ぶ“ストーリー”が重要になってくるとも。

近年、多角的に物事を見る目、議論する力、そうしようとする心構えが大切であるという声が多方面から聞こえるようになってきました。講義の中で紹介された「丹波市男女別年齢階級別人口ピラミッド」のデータでは、いろんな気づきがあることを学ぶことができます。あなたは、このデータからどんなことを見出しますか? またその背景には何があるのでしょうか?

1つのデータでも、表現の仕方や視点を変えればいろんな分析ができるように、他者と協力する中で、疑問や悩み、感動を共有し活動していくことで、解決の糸口が見つかるかもしれません。

1年1組は現在テーマ設定の真最中です。まさに今が最重要時期。設定したテーマで基礎研究を行い、時にはテーマの再設定をしながら、しっかりと課題研究の第一歩を踏み出していきましょう。あの日、あの時、あの場所で、ある少年・少女がそうしたように…。

6限には、2年1組を対象に、個別指導をいただきました。2年生も現在グループ分けとテーマ設定の真最中です。テーマは決まったものの、ストーリーをどう組み立てればよいか、問題となっていることの背景をどのように調べればよいか、アンケート調査の項目や対象や内容をどうすればよいかなど、それぞれが抱えている悩みや疑問に対してアドバイスをいただく時間となりました。後日、高畑先生から素敵なプレゼントもいただいています。アドバイスを受けた人の手に順次届けます。

7月1日(水) 丹BAL1

1年生2~6組では、先週に引き続き、自分たちの取り組むテーマについて話し合いが進められました。今回は「マンガラート」という手法を使ってテーマを深化させるべく、活発な議論が進んだようです。今回出されたテーマをもとに、7月15日の特別授業に向けて、グループ分けを進めていきます。

